

こたまコラム (矢作新報社への寄稿内容)

新型コロナウイルス感染症の脅威が2年近く続いており、8月下旬には県内新規感染者数が2千人を超えたものの、現在は大幅に減少してはいますが、第6波の到来も懸念されており、引き続き感染予防策の徹底をお願い申し上げます。

なお、今月12日までの会期で県議会9月定例会が開催されましたが、新型コロナウイルス対策以外にも様々な議案を審議し可決しましたので、今回はその中でも「矢作川カーボンニュートラルプロジェクト」について触れたいと思います。

前回の投稿にて「あいちカーボンニュートラル戦略会議」についてご紹介させていただきましたが、この戦略会議の提案募集に対し、企業・団体から7件の提案があったそうですが、その中で唯一、「矢作川カーボンニュートラルプロジェクト」が選定され、プロジェクトを進めるための検討調査費が補正予算に盛り込まれておりましたので、所属する建設委員会にて選定理由等を質しました。

矢作川流域はご存知の通り、上流には多数のダムが建設され、循環型林業に取り組むなど森林整備も盛んであり、また、自動車産業を始めとした産業が集積し、上水道や工業用水道による水利用、更には古くから農業用水としての水利用も行われています。

この様に、水循環をキーワードに、再生可能エネルギー等の導入に向け、矢作川流域は多くの検討分野が揃っており、スケール感のあるポテンシャルの高い提案であったことから、全国初のモデルケースとなることが期待できるとして、選定に至ったそうです。

本プロジェクトは今年度内に概略検討調査を実施し、来年度以降は研究会を設立し、官民連携で取り組んでいく予定とのことなので、今後の活動を注視してまいります。



愛知県議会議員

こたま よしかず

樹神 義和 